

平成 19 年度卒業論文優秀賞の選定結果と講評

大阪市立大学工学部建築学科

選定委員：藤本益美(委員長)、谷口与史也、谷口徹郎、梅宮典子(大倉良司(代理))、鈴木広隆、横山俊祐

1. はじめに

卒業論文表彰制度ができて今回ですでに 12 回目を迎えることとなりました。1995 年の表彰制度発足当時に掲げた『建築学教育の集大成としての卒業論文の教育効果を高める』という主旨に従い、本年も昨年に引き続き、原則 1 論文を卒業論文優秀賞に選定するという方針を採用しました。選定するに当たり、卒業論文の完成度が、分野や基礎研究、萌芽的研究あるいは応用研究によって異なることから、評価のポイントは、梗概、プレゼンテーション、質疑応答に焦点を絞っており、内容がいかに優れた論文であっても、プレゼンテーションや質疑応答が不十分であれば、論文優秀賞候補に挙げられないことを付記します。

2. 選定経緯

本年度の提出論文は、28 編であり、2 月 22 日の卒業論文発表会終了後直ちに、卒業論文優秀賞選定委員会を開催しました。平成 19 年度卒業論文優秀賞選定方法に従い、卒業論文優秀賞を選定しました。選定方法は、『卒業論文優秀賞は教員による投票によって決定する。卒業論文梗概と口頭発表ならびに質疑応答より、各教員が優れていると判断した卒業論文 3 編を専門領域に関係なく投票する。投票の結果、得票数の最も多いものを卒業論文優秀賞とする。最高得票論文が複数の場合は、それらの中から選定委員の議論により決定する。』と規定されています。

各教員の投票結果を以下の集計表に示します。

表 1 平成 19 年度卒業論文優秀賞投票結果

	御宮司	上口	河合	齊藤	田中	西村	羽太	福島	藤野	山本	吉田
坂			○			○		○			
谷口(与)				○				○	○		
谷口(徹)				○		○				○	
木内		○		○					○		
梅宮				○	○	○					
鈴木					○		○				○
横山			○		○			○			
杉山				○				○	○		
藤本							○	○	○		
徳尾野	○					○	○				
計	1	1	2	5	3	4	3	5	4	1	1

投票結果によると、各先生から少なくとも一票が投じられている論文は、11 編でありました。これら 11 編の中で、最多得票 5 を集めたのは、福島理沙君、齊藤優子君の論文でした。プレゼンテーション、質疑応答、論文概要に加えて、テーマの社会的貢献と新規性を検討した結果、福島君の論文を優秀論文賞に選定しました。そのほかに多くの得票を得たのは、4 票の西村真君、藤野敦子君、3 票の田中康晶君、羽太義人君であり、これまでに挙げた 6 人以外にも内容的に優れた論文がありました。各論文に寄せられた選定理由のコメントを表 2 に紹介します。

優秀賞投票にノミネートされた論文数が、昨年度の 16 編に比べて今年度 11 編と少ないのは、投票者数が少ないことにもよりますが、プレゼンテーション、質疑応答の準備不足が一因であろうと思われます。真摯に取り組んだ卒業研究の良さを聞き手に伝えるのは、発表者の義務と権利であることを認識してほしいものです。

表 2 選定理由コメント

	コメント
河合美幸	梗概と内容および発表、質疑応答についてまとまっており、わかりやすかった。
齊藤優子	全体的にまとまっている。
西村真	梗概と内容および発表、質疑応答についてまとまっており、今後、成果に期待したい(機械、電気分野のとの共同開発が必要)
福島理沙	梗概と内容および発表、質疑応答を総合的に見て他と比較して特に優れていた。 研究内容を把握しているように思える。
藤野敦子	内容に興味を抱かせ、展開の可能性を感じさせ、プレゼンテーションも立派であった。

3. 卒業論文の講評

ここで、卒業論文優秀賞に選定された福島理沙君、次点となった齊藤優子君の論文講評を紹介します。

卒業論文優秀賞 福島理沙：「平面ラチスアーチの静的および動的過大鉛直荷重下での崩壊挙動に関する研究」
講評：本論文は学校体育館などに用いられる中小規模の平面ラチスアーチを対象として、終局変形状態での耐荷性能などの静的弾塑性挙動と鉛直地震動下での動的崩壊挙動との関係を調べている。その際に、静的弾塑性解析より得られる構造物の歪エネルギーと自重によるポテンシャルエネルギーを同時に考慮した吸収エネルギー指標を用いており、動的崩壊時の地震入力エネルギーと吸収エネルギーの最大値との関係を比較考察している。その結果、地震入力エネルギーが吸収エネルギー最大値に近付くと動的崩壊に至ることを明らかにしている。衝撃的な地震動を受ける場合には地震入力エネルギーが比較的小さいレベルでも動的崩壊に至る場合があることも示されており今後の研究が期待される。以上のように本手法は設計用地震荷重に対する構造物の余裕度を把握する上で重要な手掛かりとなりうるものであり、また都市防災上重要な意義も含まれていることから、建築構造学分野に大きく貢献するものである(谷口与史也)。

次点 齊藤優子：「小学校における普通教室周辺の環境についての研究」

講評：大阪・東京・千葉・福井に立地するオープンスペースを持つ公立小学校 6 校を対象として、教育方法や内容が多様化する中で普通教室周りの物的環境のあり方を見直すことを目的とした調査研究である。現地の観察調査、校長や教頭へのヒアリング調査およびアンケート調査の結果分析により「オープンスペースの様々な家具やスペース」と「普通教室周辺における児童の個性を生かした多様な教育」との対応を指摘している。やや強引な結論であるが、丁寧に調査が実施され、プレゼンテーションも好感が持てるものであった(徳尾野徹)。

4. 卒業論文発表に対するコメント

選定理由のコメント以外に、卒業論文発表全般に対する総評を頂いています。コメントは、論文テーマの選び方、研究の進め方、まとめ方に対して、非常に有益であり、表 3 にまとめました。進学して修士論文、進級して卒業論文に臨む学生は、テーマ設定から研究遂行(実験・調査、論文執筆、発表)の戒めにして下さい。

表 3 総評コメント

発表技法に対するコメント	今年度は、昨年度に比べて、発表時間、プレゼン技法、質疑に対する取り組みが不十分であった。原稿棒読みの発表が多く、せつかくの研究内容が過小評価されがちである。
	プレゼン機器の操作を習熟しておく必要を認識してほしい。これは、他の発表者に与える迷惑防止の上からも重要なことである。
テーマ選択と研究の進め方	テーマ選択の重要性を認識してほしい。
	文献 Review が不足している論文が見られた。結論や結果を吟味する上でも重要である。

以上(文責 藤本益美)